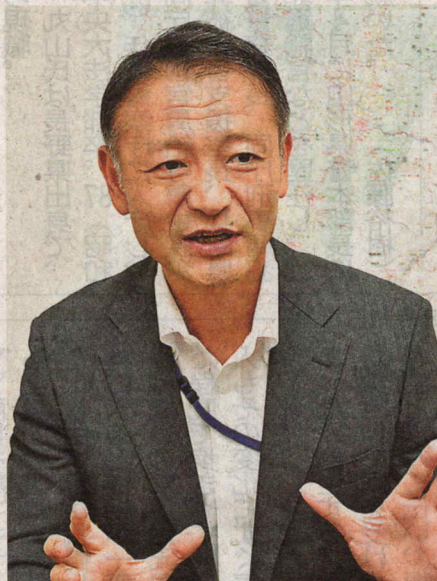


日銀山形事務所長に就任

かわむらのりあき
川村 憲章さん(56)

日本銀行の情報サービス局企画役から山形事務所長として6月に着任し、29年ぶりの地方勤務になった。山形事務所は通貨の供給と流通のほか、金融経済動向の調査・分析と公表、金融知識の普及が役割。「経済や物価の不確実性が高い状況下だが、県民に県内経済の現状やリスク要因を分かりやすく伝えたい」と語る。

東京大法学部を卒業後、「経済のダイナミズムの中に身を置きたい」と1990年に入行。駆け出し時代は名古屋、岡山支店で鍛えられ、本店では金融政策や金融シ



STEMなど幅広い業務を担当した。海外での勤務経験も豊富で「国内外での経験を生かし、本県経済の発展に貢献したい」との思いも抱く。前の職場で広報部門を担い、情報発信はお手の物。全国放送のテレビ番組でタレントを連れ、国指定重要文化財の日銀本店本館を案内したこともある。本館を紹介する3D・VR(仮想現実)映像「おうちでにちぎん」

を作り、オンライン授業で50回以上、国内外の学校に発信した。日銀のデジタルトランスフォーメーション(DX)や金融教育も推進した。

東北地方で暮らすのは初めて。「山形は食文化や観光資源が豊富。人も温かく最高の土地柄」とした上で「『県産酒で乾杯条例』に沿い、県産の日本酒やワインを堪能したい」と笑う。街歩きや食べ歩きも好きといい、「山形市民の一人としてラーメン消費量アップにも貢献する」と意気込む。学生時代はサッカーに明け暮れ、大学では体育会委員長や日韓学生交流日本代表も務めた。千葉市出身。

(菅原武史)